

昭和二十八年十二月二十日招集(第二号)
第四回市議会定例会々議録

館山市議会第四回定例会々議録（第二号）

昭和三十八年十二月招集

十二月二十一日（土曜日）

議事日程（第二号）

認定第一号 昭和三十七年度館山市歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和三十七年度館山市特別会計公益質屋歳入歳

出決算の認定について

認定第三号 昭和三十七年度館山市特別会計国民健康保険歳

入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和三十七年度館山市特別会計と畜場歳入歳

出決算の認定について

認定第五号 昭和三十七年度館山市特別会計波左間及び加賀石

地区簡易水道歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和三十七年度館山市特別会計休養施設歳入

歳出決算の認定について

認定第一号

昭和三十七年度館山市特別会計館山市筆ノース木
ステル歳入歳出決算の認定について

認定第八号

昭和三十七年度館山市特別会計鉈切簡易水
道歳入歳出決算の認定について

二十一日 午前十時十分 開議

・副議長(松本藤太郎君) 本日の出席議員数 三十名

こいづり 第四回市議会定例会第二日の会議を閉会
いたします。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行ないます。
日程第一 認定第一号乃至第八号、昭和三十七年度一般会
計並びに特別会計決算書を一括議題と—直ちに

質疑を行ないます。

議事進行の方法としてまず一般会計の歳入歳出を一括して質疑を行ない、次に特別会計の第二号乃至第八号の決算を一括して行ないます。

このより認定第一号の質疑を行ないます。

なお、この際申し上げます。中発言の折は、ページをお示し下さいますようお願い申し上げます。

・三三番(高橋文治君)私は本日上程されました決算認定、なおまた例月検査にもつとも関係の深い監査委員に因りまして、議長さんにお尋ねいたします。

私はかつて前々回市会議員四年間在任中、市会が国会のたび、ここにいらつゝやいます。監査委員殿が毎回出席されまして、提出された印刷物について、重点的に説明され、なおまた監査委員としての委員を南陳

さしきいて、私どもとしては、市で財政経理状態がはつきりさせることができて勉強になったのであります。

一かゝるに今回市会に就任いたしまして、既にハカ月になんかんとおつておつたが、いっぺんも監査委員はおいでになりませんで、従いまして説明もありませんが、これは法的に出席できないことになつたのであります。或いは、その他事情で出席を求めないやうに相なつたのであります。この事情を議長さんからや答弁願いたいと思つています。

第二点は、さうやうに監査委員が出席さしませんが、説明もありませんので、私らは今後法的によつて出席できないものならやむを得ませんが、さもないやうにば、出席して説明していただく、また監査委員の注意を拝聴いたしまして、さうして、例月検査につきましても、いろいろ質問

があると思存します。そういう場合がありそうです。今後は
非とも監査委員の出席を希望する者であります。

この点につきましても、議長さんは、今後監査委員の出席
を求めるや、意思ありや否や、以上二点をや、質問いたし
ます。

。副議長（松本藤太郎君）三三番議員からの議長に対する
質問のようでございますが、一応お答えいたしたいと思います。
前回は監査委員の報告を議場でいたいたしておりますが、
今期は、これを前回から見ますと省略したような形でござ
います。が、やっております。というわけが、根拠はどこか、こ
ういうや、質問のようには思いますが、まず、このつきま
して、議会運営委員会、金庫協議会にもお話をいたいたわけ
でございますが、他の都市におきましては、監査委員が議
場に出席して報告をするという面が非常にまれである。

要するに詳細に監査経過を印刷したものをお手え
 に配付をして、そうしてこれをよく見ていただく。こういう
 ことでやって参つておるのだとうでございす。従いまゝて
 当議会におきましても本期は他う都市でもやっておる
 ように一応書類報告のやり方について。こういうことに議
 会運営委員会が決定を。そうして皆さんに金員
 協議会に中報告をいたした。そういう経過でござい
 す。でございすので、これに対する問題につきまゝて
 は、後日また話し合ひをすることにも結構だと思ひま
 す。本議場におきまゝて議員の発言は議事に関する
 ものの発言ということとでございす。又今のは、三三番議員
 の質問に対して。不服ではありまゝうが、一応以上
 で中了承をいたしたいと思います。

五番(秋山六三郎君)十七頁でございす。住宅使用料でござ

いますが、先ず議会におきまして、住宅料というものはここに持つてくるというお話でございまして、たが三十七年度には、収入未済額が五万九千八百円でございます。

三十七年度分ですから、もはや完納になっているかとも考えますが、こういう場合、延滞があった場合にこういうふうなや処置を—ていらつ—やいますか。

第二点といつて、五十九頁小学校費の需用費、中学校の需用費、小中学校の装繕費の配分でございしますが、この配分につきましては、どういったようなことを根拠としておやりになつていらつ—やいますか。それと伺いたいと思ひます。

第三点といつて、六十頁でございます。高等学校安金協会の失済掛金でございます。今度十八円に上げたいということでございますが、これは準要保護児童等はどう

いうふうになっていらいやいますか。この表では三月を十五円ということになっておりますが、今後はどうなるのか。

それから幼稚園の方はこれより額が下つておるうではないかと思ひますが、改正—ま—にもうに對—ま—ては、何月迄納めるのか。これをとお伺ひいたします。

・福祉事務所長(鶴沢資寛君) 住宅使用料、未納の処置について、中實向でございますが、福祉事務所、係が督促に参りまして極力納めていただくようにしておりますが、延滞料とか、そういうものは取っておりません。—げく足を擧げて納めていただくような方法を取っております。

・庶務課長(千場伊右エ門君) 小・中学校関係の需用費、このま—というふう配当—てい—か—ということでございますが、大體教科研究、講師謝礼というふうなものは、一校三千円ずつで全部十三校分、消耗品は三・五割が均等

割で六・五が学級数割、それから燃料費は三十七万を三・五割を均等割、それから六・五を学級割、それから給食費、施設には、それぞれ、館山が一萬五千円、富崎七千五百円、豊房七千五百円

食料費は五割が均等割、五割が学級数割、印刷費は三・五割が均等割、六・五割が学級数割、通信運搬費は三・五割、均等割、六・五が学級数割、以上のような割合で配当いたしております。

それから学校安全会の関係でございますが、義務教育、小中学校関係は、これは二十円のうち十円を生徒、児童の保護者から徴収いたしまして、あとの十円は、公費をもつて支出、合せて二十円を支出いたしております。

幼稚園、高等学校の方は、金額本人が負担をいたしまして、それを収入して、それを金額出すという方法でございます。

います。それから準要保護児童、要保護児童は、三月を徴収してあとは全部公費で出しているような方法でございます。

五番（森山六三郎君）十七頁の住宅の使用料でございますが、私に聞いたところによりますと、ところによっては、当番制になっておって、当番の方が市役所の方に納めらるという事も聞いておたうてございますが、個々に持っていraftしやるということになると、だれも金に困ったときは出にくく、当番によって集まるならば、こゝろ家も出たから、若しくはも出さなければならぬというふうになるのではないかと思っています。本当に個々で持っていraftやる方が多いのか、当番制のところが多いのか、それとはつきり教えていただきたい。それから学校で割当よくわかりましたが、修繕費あたりは割当でございしますが、こゝろ割当ということは、触れていな

かつたゞでございますが、修繕費についてお答え願いたいと思
います。

・福祉事務所長(鶴沢貴^寛君) 住宅使用料の徴収につきましては
私の方から極力お願いいたしまして、当番制を実施していきたく
思います。ですから個々に持つてくる方がりずぬでございま
す。当番制の方が大部分でございます。

・庶務課長(千場伊右エ内君) 修繕料でございしますが、器具
修繕料はやはり均等割が三・五 学級数割で六・五
割という割合でございます。

・五番(秋山大三郎君) ここにある養護費の修繕料という
うは、備品の修繕でございしますが、校舎とか、そういうも
のう修繕でございしますか。

・庶務課長(千場伊右エ内君) 養護関係の修繕料でござ
います。これは一部を均等割にいたしまして、あとは、

委員会において全部見て回りまして、そうして実際に修理を要するもの、それを見た上で大体、その学校の規模とかそういうものを勘案して割り当てております。

五番(秋山六三郎君)よくわかりました。委員会といったら、これも重点的に取り上げて年次計画を立てて一つの学校でもきちきちと作って行かなければ、総花軸式ではいつまでたってもぼろな学校が残る。一部均等割であれば、見て回るということですが、いけば、どの校舎でも、修繕があるということもいはずだ。それを委員会の方で本当に調査なさって、総花軸式でなく、きちきちと修繕していらっしゃる。ことが本当の修繕ではないかと思ひますので、希望を申し上げて質問を終りたいと思ひます。

二三番(中村春吾君)超過勤務手当のことでございますが、取員の超過勤務手当が三十七頁で百六十七万三千八百

十月計上をしております。このことにつきまゝ一體どう
ような概略超勤の事務的な面で中説明願いたいと思ひま
す。

・秘書課長(小倉澄男君)お答え申し上げます。ただ今までの
超勤の支給状況を中報告いたしますと、予算には、一応、
総取算の本俸俸に対する六%を計上いたしております。
一ヶ月ながら、現実の支給状況は、率直に申し上げまして、
一時間三十月の割でなお、その三十月も現実といいたしま
して、二時間以上超勤をした場合のみの支給するとい
う現状でございます。

・二三番(中村省吾君)最初のお答えの本俸の六%云々と
いうことがわかりませんので、教えていただきたいと思います。
一時間当り三十月の計算で二時間以上超勤勤務した
場合に二時間当り三十月の割で支給する。こういうこ

とでございますね。

こういうふうに超勤勤務手当を計上した根拠を、なおまた超勤命令令簿の方はどのような事務措置を以ておられるか、従つて逆に申し上げようけれども、超勤命令令簿によつて何時間だれだれが超勤をした。従つてこの単価は幾らで支給が幾ら、その決定額に計上されたと思つてゐてございます。従つて技術的な面でどうように操作されるかお答へ願ひます。

秘書課長(小倉澄男君)お答へ申し上げます。まことにその点につきましては、申し分ないでございしますが、現実の段階といふと、超勤命令令簿に一時三十分という均等割でございます。均等割で一時三十分に対して三十円の支給をする、だといふ命令令を以て支給いたしてあります。

二三番（中村省吾君）それだけ束さまりて、私の方では何も言う言葉がなくなつてくるのでございすけれども、一点だけ申し上げたいと思ひます。

そうしますと、明らかに違法だということは、だれが申し上げてもいえる。条例通りでも、一時間について、百分の三十五、労働基準法、からいさまりても、明らかにされてゐるわけでございます。従つて一時間三十円で払うということは当然違法である。

ただ、ここで、そうふうに措置されたものを法的に労働基準監督所に訴えられた場合に書類の上で、こうふうに決算にのせて、なおまた私が聞きまゝとしたところによると、一時間三十円の割合で帳簿を添つてゐる。

そうしますと、それを基準監督所に訴えられた場合には、これが十年層であらうが、二十年層であらうが、これを追払いなければならぬということになるわけで

ございます。 そうなつた場合にどうするか、これは明らかに決算額を以てそう裏づけとして帳簿が一時間三十円で出ているということはどうぞまあそうたつてもございまいけない。 超過勤務をやられた人たちの年度幾らということもはっきりしてゐる。 従つてその人々の一時間単価ということもはっきりしてゐる。 従つてその差額というものが当然追給しなければならぬわけですよ。 そういうことを平気でやっておられる。 それに対する事務当局としての考え方、財源があるとかないとかいう問題ではなからうと思ひます。 お聞かせ願ひたいと思ひます。

・秋書課長(小倉澄男君) それに關しては、取資組合等とも始終結合をいたしまして、現定の段階としまして、何と何とやられてゐるというところ、これはつきまゝで、何とか早い時期に改善したいということ、これは先般市

長と取員の話でございしますが、月別に何月までの取員が集まりまして市長を囲む会を実施しておりますが、その席上でもいろいろ話が出まして、これを善処したいというところで、ただ今、鋭意研究中でありますので、それを申し上げておきます。

。二三番(中村省吾君)そこでこの問題、議会の中でも取り上げて発言があったということを書いてあります。

それが今まで解決は正されない。——ハイ、このこと、ただけは、是非とも今回限り是正していただきたいと思っております。と申し上げますのは、少くとも、熊山市の市役所、取員も熊山市の中小企業の方たちもある程度指導しなくてはならない。市役所自らが、その方法を破るということは大きな問題で、労働行政新たな近代的な労働使役を行って、こういう観点から申し上げよう。

でもきわめてまづいことだろうと思います。

従つてこの点は自ら反省して直ちに是正していただきたいと思ひます。その点に關連しておそらく決算も

特別な委員会等も措置さうと思ひますけれども、

そういう中で慎重に検討さうし、市当局も今後の予算面においてこの点は十分検討さうしてこのことだけは、私

ははつきりとさうしていただきたいと思ひます。なおまたそういうこともできるはずでございします。予算的にも。

それから付随して申し上げますならば、取組組合と、三十大

条協約が締結さうしてゐるかどうか。この点も考えていただきたいと思ひます。そういうような時、

労働協約が締結さうないで一方的に超額命令するといふことも違法でございします。従つてその点も取組

組合と相談して、少くとも基準監督所等から指摘さ

ゆることのないように是非は是正していただくと思ひます。

。一八番(西村真次君)八十一頁の十四款の失業対策事業費九節の賃金の点でございますが、こゝが、当初予算から見ますと、だいぶ減額されてきております。

こゝは先日の議会におきまして建設課長さんの方から説明がありまして、それによりますと、失業者が減つてきてゐる。そのために余剰を生じたというふうな片趣旨のうちに伺ひましたが、失業者が減少してきたということは、まことに喜ばしいことだと思つてあります。一かゝ失業者が、実際に減少してきてゐるのか。或いはまた市役所の支給する賃金が非常に安い。それにひきかえて、労働が極めて重い。こういうふうなことから、その失業対策事業に加はることをきらつて参加

「ないのか。この点。それから将来失業者が減少していく見通しにあるかどうか。或いはふえていくかどうか。同時にこれによって失対事業というものが、どういう方向に向っていく見通しがあるか。それからもう一つ、失対事業として中途までできておらずけれども、山藪から畑に備する道路工事、これが中絶されたというふうなお話でございしますが、この點は、いかうかして、完成させるお考えであるか。この点も伺いたいと思います。

建設課長（新井重助君）失業者の問題について、先般説明申し上げました。失業者が減ったということは、年々若干ずつ減っております。それは、安定期でもって定取化、一定の取組を与えさせるというふうな方法に盛んに向かっておりまして、その実現が今年度に効果が現われてきて、そして、約十人、常雇化が実現したわけでございます。

従いまゝて過去に六十人ほどありましたが、現在三十人と
いうふうな減少を以て、年々失業者の数が減つてゐると
いう現象でございます。

なお、賃金が安いから、市庁事業にこないということではなく、
労働省で一定の賃金ウツクをきめまして、館山市の場合
は、この標準賃金を払っております。安い、高いということ
で、人夫が減つてきたということであります。

臨時就労対策事業というものがございまして、県道の舗
装、或いは改良に伴います失業対策事業に施行さ
れます関係上、その場合に市のウツクが五千人に達してい
ても、その方々事業が始まるというところ、そんなに人出を取ら
ないでしよう。結局大きな工事に吸収されてしまつて小
さい市の方々仕事ができないう現象がございまして、
で、年間を通してみまして、このうち千人ばかり減つてあり

ます。一、事業は当局の目的通り完成いた
 して、補修事業、これは路線の凹をなでる事業で
 ございす。二、これは三、一程度に減りまして、改良
 舗装というものは、予定通り完成いたしまして、賃
 金が百万円ばかり、予算の残を生じたわけござい
 ます。なお、将来でございす。三、今後、さらに定取
 化の方、奨励してございす。で、なお、減つてく
 るうでは、ないか。かように考えてございす。

それから事業の見通しでございす。現在、館山市
 就労人員は、約十三人位になってございす。で、今回、
 減りまして、場合によっては、事業は、ちつとできなく
 なり、簡単な路線なら、一、清掃事業なら、道路を
 やるとか、コンクリート事業というものは、十四、五
 人いなければならぬ。なお、畑、道、路でございす。が、三十八

年度でやはり千人あまり減りまゝで、これを繰り延ばして、三十九年度でやりたいと考えてございます。

以上でございます。

二八番(西村真次君) ただ今の説明で了解いたしました。

失業者が減っていくということでもまことに結構でございますが、このために事業がでまなくなるが、むしろ結構だと思ひます。一か一畑の道路は是非完成していただきたいと思ひます。

三四番(山本昇君) 一般会計の歳出の部につきまゝで二、三お伺ひたいと思ひます。

予算の歳出の状況を見ますと、予算の執行も極めてよくされておるということも考えられます。また従来、銚子市は予算の執行の面におきまして常に問題となつておりましたところの流用面も非常に

少く結構なことだと思ひますが、ただ、私ども見ますと、予算の不用額というものが多い。特に四十八頁の土木費におきまして、二百四十一万四千円、教育費におきまして、四百五十七万八千六百幾らある。これは特に多いものでございます。

それと合せて、七十二頁の社会及び労働施設費におきまして、やはり二百十七万六千幾らあるという状況でございます。もちろんいろいろ執行する面におきまして、問題が起きて、そういったこともあると思ひますが、とにかく、必要だということ、要求し、さらに議会がこれを認めて可決したという前提に立ちまして、こうした不用額が出る。もちろん消費的な面において節約して、出るのなら結構であり、すけれども、投資的な面におきまして、こうした不用額が出ることは果して

いいかどうかということも、考えさせらるうてあります。
特に、高等学校の面におきまして、監査委員の報告によ
りますと、だいぶ不用額がふたようになっておりますが、どうい
て、こういうことがふたうか。この点を、中説明願います。
とともに、さらにまた市民の生活に極めて関係の深い
社会労働施設。面におきまして、二百万以上の不用額
がふたということは、いふまでもなく考えらるうてですが、
この点に対しての中説明も願いたいと思います。

・建設課長（新井重助君） 土木費について、中説明申し上げ
ます。土木費の金額におきまして、二百四十万余の不
用額が生じたわけでございますが、これは、消費的経
費を節減というが、実支出がなかったわけでございます。
工事原材料におきまして、金額使用してございます。
維持費におきまして、七十万余の不用額が出てあります。

なお、その他におきまして、新築改築費におきまして
十万円余でございしますが、これは、目的通り工事を
施行いたしまして、請負残金、或いは補助変更等
によりまして、剰余を生じたものでございます。

なお、河川港費はいずれも、校橋の復旧とか、或いは
渠への負担金でございしますので、これはおおよそ消費
いたしまして、なお、大きなところで申し上げますと、水道
費でございしますが、これは、当時、湯水のために送水が困
難だということで、賃金、或いは消耗品、薬剤、そ
ういうものが、買つても使えなかったような状況でここに
相当額が残っております。なお、その他につきましては、

公園整備費で、海洋にグリーンベルトを増設する。

これは、渠工事でございますので、百万円、当初予定いたし
ましたところ、渠の方の予算の関係で、地元負担金五十

万円が残額、以上合計いたしまして、二百四十万の不用額がふたというわけでございます。

庶務課長（千場伊右エ内君）高等学校の新設費が三百五十一万ばかり残ったのでございますが、当初施設費といはしまして、六百九十一万計上いたしまして、工業科併設でその敷地といたしまして、現在で埋立をいたした以外の道路のところまでを全部買収するつもりでございまして、いろいろな交渉の結果、それができないで、今埋め立てられておるところが一町一反七畝二十九歩を四百二十九万五千円で購入いたしまして、もう一度一反七畝十八歩、これを議会の議決をお願いいたしまして、六十一万六千円で今年になって購入いたすのでございますが、あと残余の関係は、当初予定した工事が買収できなかつたということで残った次第でございます。

・福祉事務所長（鶴沢貫実君）社会勇働施設費の關係でございすが、七十三頁の下から五番目、棟に二十五備品費とございすが、これは二十八節の施設費の誤りでございすが、この四十五万が不執行になっております。これは、ユース・ホステルの国有地が松下げを申請したのでございすが、それができないために不執行になっております。あとは、大体いろんな物品、その他の節約等により、不用額が生じたものでございます。

・三四番（山本昇君）一応中絶現開きますと、なるほどと思ふ。やむを得ないと考えすけれども、先ほど申し上げましたように、一応当初におきまして、執行が必要だということとで要求され、それに對して、議会もこれを承認したというこのことを考えたときに、不用額の出るような執行のあり方につきましては、どうかと存じます。

そこで、一つ先ほど申し上げたように消費的な面を節約するならば、結構だけれども、あくまでも事業を執行するに付いては、今後、そうしたことがないよう、十分、留意、願いたいことを申し上げて、一応打ち切ります。

○六番(秋山六三郎君)八十五頁「環境衛生費」でございますが、このうち、消耗品が相当の金額になっておる。三百万以上ここに出ておるのでございますが、これは主として、ハエや蚊の駆除用の薬剤であり、というふうに説明されております。今まで、私たち各返り理事者の方から、薬剤の配給を受けましたが、これには代金を支払っているように考えておるのですが、いいます、市の方、特別人夫を使って、環境衛生的立場から、金銭的に駆除したようにも考えられない。それはなぜかという、賃金や支出がさわめて小額であり、ありますので、この位のことでは、このだけの薬品を使ってやる

仕事としては、賃金が少なければ、
 ますか一方、我々がこの薬剤をいただくときには、代金
 を払っておりますもの、或いはこれが市の方で一部負
 担で一部各市民に負担させておるもの、この点について
 中説明願いたいと思います。

・厚生課長(吉田耕一君) お答え申し上げます。確かに賃金
 関係と消耗品の費用とを比較すれば少ないという
 ふうに私も考えるわけでございますが、こういふ賃金関
 係につきましては、なお地域の皆さん方から協力を得ま
 して、駆除を実施に当たっておるというふうな現状でござ
 います。なお薬費関係の三百万余、大きな額に対
 しましては、一応地域から実費徴収して、そうして歳入に
 入れます。ところが、薬品を買って支出しておるという
 ような関係から、実際の市費から持ち出す額は、

金額でございます。入にも、実費徴収額が計上されております。できずはなむ、こうた面等につきましても方法等につきましても、今後十か検討いたしまして防除の万全を期していきたい。このように考える次第でございます。

議長（黒川佐太郎君）今、ミスプリントの訂正が有りまして、たが、決算書はミス・プリントは、むいもとして審議を推めております。でもし、ありまうたら、事前に訂正するよう当局に願います。

逓信書記長（大嶋重義君）百一頁十一款の逓信費で第三項の参議院議員逓信費におきまして、投票管理者報酬、カツコ五人となつておりますが、これは四人、誤植でございます。四人に訂正願います。百三頁、知事逓信費で十六節の通信運搬費とな

るものが、通収というふうになっておりますので、通信に
訂正願います。

百四頁六項、市長選挙費 十三節 食料費におきま
して選挙從事者等 食料費となるのが、選挙當事と
いうことになっておりますので、訂正願いたいと思ひます。

三二番(三沢 節 君) 六十五頁、幼稚園でござい
ますが、支出総額が一千万円を越してあります。

これに對して、収入面の保育料が五百六十万、ちよつとで
ございます。その差額四百四十万というものがござい
ます。支出の大体が人件費になっておると思ひます。需用費
は、わづか八万二千余円でございまして、現在でさえも
四百四十万余り赤字を出したという結果から見て、将来と
いうにお考えになるか、その点を。

もう一つ第一課長にお尋ねいたしますが、耕耘機台数が

ここにのつておりますが、これをどういうふうに調査するものか、市で調査するものか。或いは申告によつてこの数字をよめたいものか、この点をお尋ねいたしたいと思ひます。

・教育長（工藤和平君）幼稚園関係についてお答えいたします。幼稚園につきまゝでは、片案内うように過去二回保育料の値上げを行なつておりますが、その根上げをやりまゝに根拠は、もともと教育委員会といつたまゝでは、普通義務教育優先という立場から幼稚園の重大性はわかりますけれども、できるならば、独立採算機構のやうな形に持つていきたいというものが、本来の考え方でございまして、それが人件費の増に伴いまして、その赤字補てんに追われまして、幼稚園の施設その他器具面には手が付けられないという状況でございします。

最近の情勢から考えますと、人づくりの根拠が五々

位の子供にあるということから、これもやはり義務教育に持っていくたいという重要視にかんがみまして、これをある程度市としても満足はいわなくとも育成せねばならぬ。こういう考えを持っております。

そのため三十八年度は我々予算から見ますと赤字と申します。収入と保育料の差引きが約八百万だったと思います。そういう赤字になる傾向でございます。ので、今後皆さん方に審議をお願いいたしまして、保育料の値上げはやむを得ないのではないかと。こういうふうに考えておる次第でございます。

税務第一課長（高木哲三君）耕耘機の台数は三十七年度の陸運事務所にて扱っておりました関係で、陸運事務所から通知が回つてきた台数でございます。

七百五十二台から千台を突破しておりますが、三十七年度

におきまして、陸運事務所に届け出るのがめんどうで届かない人がだいぶいます。だが、市役所で陸運事務所の許可を得ましてやった関係で、千石突破ということになっております。

・三三番(三沢節君) だが今のお話はよくわかりました。要するに人件費に取られて、施設面に大した金がかかておられない。それはやはり親の立場、或いは保育指導の立場としてきわめて残念なことであらうと思います。従いまして今後十分に保育の面にも片援助願ってやっていくよう要望いたします。

第一課長のお話でございしますが、実は先だってナンバー取りかえのときにすでに四年過ぎておる耕耘機を持っておる人、三年の人、そういう人がおる。お互いに耕耘機を持っておるならば、公平に税金を払うというのが筋で

ありますが、届けまーなければというふうになりますと、正直者がばかを見るという結果になるので、こゝ点十分考えまして、部落の面で相違のないように特にお願ひして質問を打ち切ります。

。二番(石井正君)当局に要望いたしまして質問五六点お願ひしたいと思ひます。

こゝ膨大なる決算書をとおとい渡さなければ、少くとも一日一かないわけです。これは、我々討議できませんし、今後、こういうような部料類の書類は少くとも一週間前に渡していただきたいということをまず一点要望。

そこで勉強ができないのですが、多少わかる教育関係について質問したいと思ひます。

五十七頁教育指導費のうち取員手当、その中々指導

主事手当が二月分出てゐるわけですが、これは一年間の中
の二月しかでないものです。手当が分についてお伺い
したいと思ひます。

次に教科学習指導員の手当であるが、十八人で三万六
千円、約一人二千円程度。教科指導員に二千円であん
な仕事をやらせてゐるが、なおそれに付随して、取
扱研修費というものが一向にないわけであるけれども
これは本年の予算を見ましても、はつきりと見受けられ
なかつたわけであるけれども、今後、取扱い研修費、このような
部類のものを出す考えがあるかどうか。それから、千二
百五十料、長期研究学校委託料、十四万九千円、小、中、
幼稚園、どんな長期研究か、これも合わせてお聞かせ
願ひたい。

次に事務取員費、市で出てゐるところ、事務取員

費というものが一向にないけれども、学校の実態は
 大体十五等級以下は、事務取員がいないうけで兼
 任として市の事務取員が二三校を兼任してやって
 おるわけであるけれども、事務取員ういないところでは
 教頭が非常に事務が煩雑になって教頭というの
 は、学習指導をする面う位置にあるわけであるが、難
 務に追いついて指導ができないという結果が生まれておる
 のであるけれども、その点について市は事務取員を雇う考
 えがあるのかないのか。特に二中あたりではP・T・Aで二名
 北条館までは一名づつP・T・Aがかかえておるように見て
 おるが、ほかにも、そういう部類の事務取員をかかえてお
 るような学校があるように聞いておるのですが、この点につ
 いて当局は今後そういう配慮をする考えがあるかどうか
 お伺いしたいわけです。

次に教育委員会でを行わておりますところの本年はやめて
おるようですが、一括購入をしております。この点について
お伺いしたいと思ひます。この点については、数字がはつき
りここに出ておりませんが、一括購入のいわゆる数字を簡
単に申説明願ひたい。さらに本年はやめられたい。そう
あるが、なぜやめられたいか。その点についてお答え願ひたい。
次に五十七頁のハの支際費、教育委員会支際費が、
三十九万七千六百五十三円出ておるが、概略どんな面に
使われておるか。それから次の五十九頁三十五、備品費の
中で北条小学校在百二十四万円にがしということ、ほかの
学校に比べて多く出ておるか。あるが、この内容について、
先ほどの配分方法を聞いて見ますと、こういうふうにな
りようがないわけであるが、その点についてお伺いしたい。
以上。

・教育長（工藤和平君）はくさん中實向ありましたが、その中
の教科指導員の問題でございます。

これは、十人中案内のように我々は相当ウエイトを置い
たものでございまして、もともと六万の市として、一かも二
十一の学校を持っておる館山市といた一市では、指導主
事が二名位はーいわけでございます。それがいろんな関係
で、県の指導主事も十人にもならなかつたというような
ことで苦勞して、市の指導主事一名を皆さん方の協賛
を得きいて採用したものでございまして、それでは指
導員が足りないという観点から小、中学校の各教科
のエキスパートをそれぞれ選抜いたしまして、これだけの人
数をそろえて、指導主事補助機関という考えを持
っております。かような観点からいたしますと、お説
のようによい手当てが二千円ということは、申し分ないとい

思っておりますけれども、予算と関係でどうにもならなかったというのが実情でございます。三十九年度におきましてはこの増額を一応もくろんでおるわけでございます。

それから、研修費、これも我々が重点施策の一つでございます。研修費という名目の中に入っていないかもしれませんが、いろいろな項目にわたって教員の報償だとか補助だとか、いう面で、研修費に当るものを総額三十万円が組んだと思っておりますけれども、これも新年度におきましてはできるだけ大幅に増額をいじまして、せつかくの市長の要望にも応えたい。こういう考えでございます。

それから長期委託料、これもお話をうしろにわずかでございまして、これは約一年間特別に委託さしめて、それが、そのまゝ現場に帰るといふことで、我々は非常に期待をしております。

で、これも大幅に増額せねばならぬという考えを持ってお
ります。

次に事務取員費^費でございますが、事務取員は、市
内のように県費支弁でございます。従いまして、たゞ
からいいますと、県費で金額負担するが、当然であり
市費でやっていくのは、間違いであると思います。いわんや
P.T.Aでやることは、遺憾であります。地政法改正に
よって禁ぜられておる現状でございます。現場の実態
は、非常に困った状態であると思います。

従いまして、我々教育長会あるいは校長会におきまし
て、その筋に機会あるごとに各校必らず、事務官を置
くように、一校一人必置という運動を展開してあるわ
けでございますが、これも県の財政の關係でなかなか
実現ができませんというふうな現状でございます。

一括購入の問題は費用を節約する意味においては、大へん好ましいことでありますけれども、いろいろ学校の規模によつて大体ものを買ひなければならぬ不便ということがあつて一時やめたのでございますが、今回これをいろいろ考へまして現場から校長なりあるいは、専任の職員数、教育委員会の課員、これをもつて一括購入委員会というものを結成いたしまして、この適正化をはかつて今後一括購入を再び実現していきたい。かような考へてでございます。

庶務課長(干場伊右エ内君) 指導主事の手当の關係でございますが、当初予算に指導主事の給料は上げたんでございますが、人事の關係で六月からということになりまして、四月、五月というのは一応手当として出た。そういう次ででございます。

それから北条小学校の備品の件でございますが放送
教育大会が北条小学校を主体に実施された。そのため
に北条小学校の備品費が多くなったということでございます。
二番(石井 正君) それでは再度要望申し上げますが、一括
購入につきましては、教育委員会はやはり教育のサー
ビス機関でありまして、安いものを学校に配付してや
るということは、教育委員会自体もいゝ。学校もいゝ
わけで、今後手がある限り進めてもらいたいのですが、
一つは、害があるやに聞いておりますので、その点について
おしなましうにだきたいと思ひます。学校という立場で教
育委員会というものを見ますと、非常に教育委員会
は何と云いますか、我々一般教育にとっては、一つの權威
者でありまして、特別な目で見えておるわけで、特に一括購
入は今お話をうしろに更紙が百載シメあると思ひうけいとい

もう購入が委員会から通知がきたので買わなければなら
ない。買わないでへんな目で見られるというようなことは事
実ある。そういうようなところの弊害をなくするような方法
で担当していただきたい。私はこの趣旨に賛成する者
なので、要望申し上げるわけなんです。この点をお願い
したいと思います。

その他、一応お答弁をいたさうとしたが、本年は今まで
は予算がなかった。本年は増額を——たいという答弁
が多いわけですが、教育長としては、市長に対して本年
もやらねえと思っていますが、非常に多くの要望を——いた
さきたい。これは予算がないから、これだけだということ
でなく、幾ら削られてもかまわないから教育長の立場とい
うものはそういう立場ではないかと思っています。

もうこれはダメだということではなく、十分出して最初から考

え過ぎないように要望して貰向を終ります。

・助役(小出武男君)先ほど決算書の送付についての由題がございまして、これは、仰承知の通り、決算は五目に肉鑽しまして三カ月以内に収入役から、長に送付がございします。長はさらに監査委員の審議に付してそうしてござうってから、市会に上程する。認定を求めるという手順になりますので、九月の定例には間に合わない。従いまして十二月定例会になっておるものがほとんど全国的慣例でございします。そこで、これだけの一年間の決算でございしますので、この十二月の会議に全部結論を得るということは、慣例として不可能であるというたてきえから、三月の市会までの期間に審議を十分してもらおうというたてきえでございまして、今回提出いたしましたものは、最短距離において提出してございしますので、か

うな意味におきまして本日以前に渡すということもそう
そうできたいやで、そういう点で片了承願したいと思います。
一〇番(辻田実君)四五点申賃いたしたいと思ひます。

まず第一にこの決算書から見ますと十五頁の競輪収入の
面におきまして、競輪収入につきヨ―てはいろいろな条件
があるそうでございますが、この競輪収入をという面に支出
したかということが、果かり。そういうところに報告するやうで
ございすけれども、そういう点について数字で見ますと、一般
会計の中でそのまゝ入つて―まつておつて支出科目というんで
すや。例えば体育振興費、教育振興費という中でもつて
条件が付けらるゝるということを書いてありますが、そういう
ところに提出してゐるはいいや。さらに三十七年度におきま
すところの競輪収入に対する支出、その報告内容につ
いてわかりまゝにら教えていただきたい。

第二点 二十六頁、二十七頁におきまして土木並びに教育の面においてずいぶん寄付収入というのがあるようでございますが正確には調べませんが、それに就くところの支出の面は四十九頁、五十頁、五十一頁とわけてあります。これに關係したいろいろな事業がありますけれども、その事業の数とこちらが寄付金というものを符合するとかなり、そこで誤差がありますけれども、この寄付金というものは、どういう形でどのような基準で行なわれているか。その事業について、全部ということではないようでございますので、その点について、説明願いたいと思います。

三番目に二十五頁の産業経済補助金の中に農業近代化資金、利子補助金といつて、七万四千七百六十円計上されておりまして、九十二頁の支出の方に参りますと、七万七千八百五十五円の支出

にわたっておりすぎるけれども、ここで見ますと、農業近代化資金の利子補給というのは、国、県、市において一定の率をもって補給していくということでございます。それけれども、この差額があまり南き過ぎて受益者に対して市の補給の面について若干少ない面があるのではないかと、このように懸念されますけれども、その誤差があるのではないかと、そういうことについてお答え願いたいというふうに思っております。

四番目に九十九頁でございます。ここに郵便局だとか、警察署だとか、駐在所、そういう面について市が多額にわたります。借料並びに損料というものを支出しておりますけれども、この点につきまして見便りというものが収入の部において全然見受けられないのでございまして、けれどもこちらについては市が直接こういう

警察とか、局とか、そういうところに対して、土地を借りて
やって借料を払ってやって提供してあるものか。そういうのた
面について、物質的な面については、何ら収入、部に上る
こないのか、どうか、という点について、お伺いしたいと思つた
けでございます。

次に七十二頁、館山市には、体育指導員というものが、
おるぞうでございます。けれども、七十二頁の体育費並び
に、関係の費用のところを見ますと、体育指導員が無
報酬という事になっており、ありますけれども、旅費にしろ、金
く活動に形跡というものが、予算上から見られないが、
実際には、体育指導員に対しては、費用弁償等旅費
を支払うということは、市の条例、体育振興法の中にも
ありますけれども、これでいきますと、全く実際の指
導員が無報酬で活動しているのか、その点について、以

上五つの点について、御質問いたします。

・総務課長（山口実君）第一点の競輪収入でございますが、従来の慣習といつて、こゝらを一一般財源といつて、こゝらを一収入に対する報告は公共事業に財源として使用いたして、その結果を組合に報告しております。

例えば、こゝら収入を学校建築に幾ら、そういうような方式で毎年結果報告でもつてなされております。

・建設課長（新井重助君）土木の方寄付金のことでございますが、寄付金は、こゝ中ではわかりにくいのですが、道路維持費、修繕費の中に書いてございます。

そうほか五十頁の中の新築改築費、この中に工事請負費の欄がございます。この工事の中へ寄付金、或いは、五十一頁の河川整備費の中の工事請負費、棧橋とか、河川の事業、こゝらも寄付をさうだいし

でございます。

その他に失付事業の方から申えらる。寄付をいただいておる方で、これを集計して歳入の寄付金の中に入っておりますので、全部統合しないとわかりなと思います。それから寄付の割合でございますが、一般土木におきましては、工事費の三分の一をちょうだいしております。ただし、この中で寄付能力のない部落が高かったり人口が少ない場合とかがないところは、三分の一をちょうだいしてございませう。以内は市長が定めましてその額をちょうだいしております。特に最前になりまして橋の修かえ工事、維持、補修については、ちょうだいしないことになっております。

都市計画の方でやります。公共事業、その他について負担金ももらわないことになっております。

庶務課長(干場伊右エ内君)教育費関係の寄付の問題でございしますが、ここにあります富崎小学校の講堂の
関係については起債、補助を除いたものを寄付をお願い
いたす次第でございします。

館野公民館関係でございしますが、これは半分を寄付
をお願いしております。

館山高等学校の関係でございしますが、これは市外から
通学してゐる生徒一人から二百円ずつ、毎月寄付をい
ただいております。

体育指導員の手当の関係でございしますが、これは手当
としては、あきないで、旅費、費用弁償として与える。一日
幾らということではあります。

総務課長(山口実君)九十九頁、借料及び損料の支払い
でございしますが、それらにつきましては、歳入におきまして

一五頁、雜種財産收入、そこに大部分入っております。

農産統計課長（伊藤幸太郎君）より質問の近代化の關係でございしますが、大へん申しかけないのです、この近代化資金の正規の利子補給關係の切りかえの時期が多分のずいばございまして、数字的にもっと資料を持って参りますので、取り寄せてお答えいたしたいと思います。

二番（辻田実君）その点につきまして、利子補給は一般の場合に国が一分五厘、県二分、市町村において一分五厘づつ……

農産統計課長（伊藤幸太郎君）現行におきまゝでは、近代化資金の利率は、九分五厘でございします。

そのうちに三分五厘を果、国市町村負担いたしまして、本人の利率は、六分ということになっておるわけでございますが、最初申し上げましたように、当初におきまゝで

多ク、ずいぶんあったようでございます。 現行とは、そういう
な数字の関係だと思ひますが、数字的に調へさへ
いたださまへお答えいたしたいと思ひます。

○一々番(廿田実君)あとの点につきましては、すぐここであるとい
こともいかなうと思ひます。で、次の点を要望いたしま
して、うちほどう答弁の中でお願いいたしたいと思ひます。
競輪の面につきまへては、先ほど公共施設に使うといふこ
とで報告してあるといふことでございますが、実際に報告
してあるものについて、これを公開してもらいたい。といふこと
は、名目的にこういうふうに使つたといふことで、とにかく一般
会計の中に繰り込んでどう使つたか、といふことがわからな
い。そういう面については、いろんなところの工事費をみんなを
ビッグアップして、それを合せて報告するものか、という
形の公共施設費といふものを報告してきておるものか。

その点について内容を知っておきたいということでごさいます。そこでこの点について内容をお願ひいたしたいと思ひいます。

土木、教育につきまゝての寄付の構成でございますけれども、要するにこの決算書を見て参りますと、寄付金を出す割合が、私が見る場合がおかしいのかも知れませんが、こちらで支出の方の工事総額と、寄付の収入金を計算して出て見ると、率が決まって一定でないということだ、二、三だけでもわかるわけでございますけれども、そうなる場合には、安くなるし、ある場合には、高くなるということだ、不明確な気がする。ですから、新規事業、都市計画事業、さらには、地元の要請の事業等の寄付を含めたものと同じ科目の中でも

寄付の率で相当違つて、この点調べていただきたいと思つわけでございます。

他の面についてはうちほどありましたら教えていただきたいと思つています。一応質問を打ち切ります。

庶務課長(干場伊右エ内君)先ほど体育館指導員の旅費が出てゐるといいましたが、これは出ておりません。

副議長(松本藤太郎君)午前の会議は、以上で休憩といたします。

午前十一時四十五分 休憩

午後一時〇〇分 再開

副議長(松本藤太郎君)午後の会議を再開いたします。

出席議員数 三十二名。

一般会計の質向に入ります。

二七番(鳩田繁君)十一頁、市税についてお尋ねのないと思ひます。

こゝを見ますと収入未済額・滞納額と申すものであると思ひます。千六百万円ばかりございます。前年は千四百万円位と記憶しておりますが、そう際もなるべく徴収については力を入れてもらいたいということも強く希望として申し述べておいたんですが、こゝが二百万円、その後上回っているという理由については、果してそう徴収に全力を尽したかどうか、そうして、こゝも少くとも本年年度においてこの埋め合わせを付けるといふ決心がありますか。それから、やはり滞納繰越金二百八十四万一千円もあります。こゝはほとんどどこげ付きうしろなほうになってしまつてゐると思ひます。それの子算には六十何万ぼううという意気込みで、うごまいた

の十二万の徴収されていない。

果してこの内容は、こんな程度のもので、全然あとは、見込みがないかどうか。なければならぬ早く始末すべきものだと思う。これも一つ。それからもう一つ、欠損額、これが大分出ておられますが、こういった階層のものであるが、そうして、これに対する方途は、尽きようということかどうか、それをお伺いいたします。以上、三點について。

・税務第二課長（多田俊一君）　ただ今の質問に対して、お答え申し上げます。

確かに前年三十六年度に比較いたしまして、約二百万円の滞納がふえておることは、事実でございます。これは、私の方といたしまして、徴収に極力滞納整備に当たつたところでございますが、率にいたしますと、大体九一・八九%三十六年度九一・九三%と、率が下つておるわけでござい

ます。そこで係といいたしよーて努力が至らなかつたことを十分反省いたしておる次第でございます。今後極力徴収を増加ということに對して努力いたしたいと思ひます。なお、内訳といたしよーて、繰越分二八・七二%と非常に少なくつてあります。これは、税法の改正によつて今まで滞納繰越分を現年度の出納肉償が五月三十一日で行われておつたうでございますが、滞納繰越分につきまゝでは、三月三十一日で締め切ることとで二カ月間の整理に多量の差ができたという關係でここに繰越分の徴収率が、下つてきているということになつております。なお、大損越分の件につきまゝでは、大體監査委員の方からも指摘されております。また我々係といたしよーて十分整理いたしておりますがなお、取り得なかつたものが相當ございます。これに對しよーては、差押え処分

執行停止、いろいろやっておりますが、現在まだ相当のものがござります。これはどうしても法的にやむを得ず不能にいた。こういう点についても、なるべく我々としてでも、取るものも多く取らなければならぬ。そのため法的に滞納処分を執行するということで、今後もしっかりとやってまいります。

・二七番(嶋田繁君) よくわかりました。どうぞ十分努力して、この額が年々減っていくというような傾向に持っていてもらいたい。これを希望いたして質問を打ち切ります。

・副議長(松本藤太郎君) おはかりいたします。一般会計の歳入歳出に関する質疑を打ち切りたいと思っておりますが、や異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(松本藤太郎君) 異議なしと認めます。よって特別会

計第二号乃至第八号にわたる七議案に対する質疑を行ないます。

・二番(君塚喜三君) 百十五頁の公益質屋の運営について
 作質肉いたいたいと思います。

表を見ますと八十三万七千三百三十九圓の繰り入れを見ておるわけであります。公益とはいえ、損益を伴った事業で一般会計から八十三万七千余円の繰り入れをやらなければ運営が成り立たなかったということを示しておるわけがあります。

その理由として、利用者が予想に反して減った。このことを示しておると思うのでありますが、利用者が減ったということとは、喜ばしいことか、悲しいむべきことか。市民の生活にゆとりができたということであらばまことに結構であります。質屋がなくなつてこゝろになつたということならば、まことに

深刻であり悲しむべきことだと。こういうことになさるわけです。
いずかにいたしましても、決算に關する報告書にもありません
通り赤字でもつてきて運営が困難を來してゐるというものが
事實である。ところでこの際市會の預託制度、これを活用して
それこそ安易に借りることができる担保とか、保証人だとか
いうことでなく、また貸ぐさ程度の少額の金を容易に
借りることができるのだといったような金融機關を設定
してこれは肩がわりさせる。そのことにおいて公益質屋を
廃止の方向に持つていくべきではないだろうかと思はれる
わけでありませう。

貸し倒れということも多少はあるかもしれませんが、赤字補て
んということから見れば、むしろむしろではないかという気も
するものであります。市長さんは、そう借入、専門家でござ
いますので、こういうことが法的に可能であるか、不可能

であるか、この点について所見をお伺いいたしたいと思ひます。

市長（本間譲君）質屋という法律によって運営しているわけでございます。この位の持ち出しで相当の成果をあげているわけでございます。結構だと思ひますが、金融だけを扱うというのは別の法律によってやらなければならぬのですが、漁業組合とか信用組合とか信用金庫とかに預託してやる方法もございしますが、あまり零細な金々ものでして、取り扱い上、どうかと思ひますが、そういう手もあることはございます。一か一。今、質屋を廃止して金融とすることはできないと思ひます。よろしくございします。

二三番（君塚喜三君）大体意味はわかりますが、実は赤字で三十七年度において赤字だということなんです。三十八年度もこのような状況に陥るかどうかと思ひます。赤字企業を

かかえておるわけでございます。今いったように預託制度を活用して少額のもろを容易に担保や保証人といったようなことでなく、簡単に借り出せるというような機能的なものを設けることができるならば、これに肩がわりさせることにおいて解消していくことができるのではないかと、それが果して法的に可能であるかどうか。

。市長(本間謙君) 法的にはまずいですね。

。七番(田村源治郎君) これは歳入歳出の決算報告で出されておる認定です。議員としてこれが不明瞭に使われたか、使わなかったかということについて調べるものであつて、予算審議ではないと思ふのです。その点、議長はどう考えるか、それをはき違えているのではないかと七番議員は思ふがその点、お願いします。

。副議長(松本藤太郎君) 議員がここに出席する以上、議案に対

二 負 日 月 講 五
する審議。その内容がいかにどうあるうに、つても議案に対しての質問は許さるものと解釈しております。そういう意味におきまして、発言を許可しておるわけでございますので、やり取り承いただきたいと思ひます。

七番（田村源治郎君）歳入歳出の決算書における数字の上で不明瞭であるか。或いはこの金が確かに出さへているものであるか。或いは市の事業においてむだに使われているか。ということ。今度の問題にあるが、決算書におけるポイントじゃないかと思つてますが、議長は言明した通りにやっていないと私は認めます。

副議長（松本藤太郎君）先ほども申し上げました通り、議員としての任務の中からもちろん、これは決算書でございます。数字の上は七番議員の申さへる通り、数字の上でやるべきものであります。これは事業運営に伴うものでございまして、

一部、そういう言に入りましてもよい。こういうふうには解釈いたしたものでございますので、ゆり承いたいただきたいと思ひます。
七番(田村源治郎君)議長としてそういうふうには了解してゐるから、いふべき言葉であつて、現に七番議員に追求されて、いふべき言葉ではないと思ひます。

・二四番(島野茂樹郎君)一つだけ中實問いたします。
百二十三頁の国民健康保険の歳入歳出、この中で不能欠損額が九十二万余円というふうには計上されておりますが、不能欠損にする場合、どういふふうになつたら不能欠損にするのか。その点を教えていただきたいと思ひます。

・税務第二課長(多田俊一君)私の方で徴収を管轄してありますので、お答えいたしたいと思ひます。

不能欠損とする場合には、もちろん生活の困窮によつて

再起不能の場合とか、税法によって規定されておるのをご
ざいます。片承知の通り保険料は時効年限が二カ
年になっております。税法におきましては、五カ年ですが、
この二カ年に適当な処置をしなければ本人が納めたい
といつても時効がくれば、取り得ないという現状になってお
ります。この点につきまして我々といたしましても、十分時
効を持っていかないうにやっておるのをございます。ただ国民
健康保険に加入している世帯というのは、比較的低所得
の家庭が多いというふうな関係でこういう数字が出てくる。
係といたしまして、その大損を出すということとは、申し分けな
いことをございまゝて現在私の方といたしまゝては、税と保
険料を両方加味いたしまゝて、差押え処分を相当やつ
ております。その中で税よりむしろ保険料の対象者
が多いということをございまゝて、私の方といたしまゝても、不

能を出したくないと思つて努力いたしております。

。三三番（三沢節君）この際、動議を提出いたしたいと思つた。ただ今議題となつております認定第一号乃至第八号昭和三十七年度一般会計並びに特別会計の決算書につきまゝでは、なおたくさんの中絶言がありと存じます。一かーながら、ひとまず、質疑をこの辺で打ち切りまして、本決算書については、極めて慎重を要することであらうと思ひます。一かもまた相当の日時を要するかと存じます。よつて決算審査特別委員会を設置いたしまして、その期間を三月定例会までと一審査を願つて付託さうです。よろしくここに議会議堂協議会を代表いたしまして、議事進行の動議を提出いたす次第でございます。なお、委員の数は十名といひまゝで、選任の方法は議長、監査委員を除いて任期中、全員が決算委員に

選任されますよう取慮され、議長、指名によつて選任していただくたいと存ずるのでございます。以上申し上げて、満場の出席賛成を得たく、ここにも願ひする次第でございます。

・副議長（松本藤太郎君）ただ今三番議員君より提出された議事進行、動議を議題といたします。

ただ今の動議は、認定第一号乃至第八号について、質疑は、ひとまず、これでお切り、慎重審査の必要上、特別委員会を設置し、これに特に肉会中、審査の特別付託をいたしたいということであり、おはかりいたします。この動議に、異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・副議長（松本藤太郎君）異議なしと認めます。よつて決まりました。重ねておはかりいたします。

本動議によりますと、委員会が数は十名、選任の方法は、議長、監査委員を除いて本任期中に一度はこの委員となるように、適当な方法で選挙し、議長において指名するということであります。

これにや異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君) 異議なしと認めます。よって以上の通り決定いたしました。

暫時休憩いたします。

午後一時二十五分 休憩

午後一時二十六分 再開

副議長(松本藤太郎君) 休憩前に引き続き、会議を開きます。

こゝより決算審査特別委員会の委員を指名いたします
一 番議員 吉田勇治郎君 四 番議員 館石伝蔵君
八 番議員 望目照正君 一〇番議員 什田実君
一四 番議員 志村信作君 一五 番議員 小沢恵太郎君
一七 番議員 飯田義男君 二〇 番議員 保科忠夫君
二二 番議員 江田徳太郎君 二二 番議員 君塚喜三君
以上二十名の方を決算審査特別委員会、委員に選任いたします。こゝに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(松本藤太郎君) 異議なしと認めます。よって決定いたしました。

ただ今選任さした決算審査特別委員会に昭和三十
七年度認定第一号乃至第八号の審査を一括して付託
し、由会中審査を付議いたします。

これに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君) 異議なしと認めます。よつて決ま
—た。ただ今、選任されました委員の方々は本日中に正
副委員長が互選をさしこめて議長に於て報告下さるよ
うお願い申し上げます。

本定例会に付議されました案件、全部議了となりま—た。
よつて昭和三十八年度第四回市議会定例会をこれにて閉
会いたします。(拍手)

午後一時三十分 閉会

本日の会議に付いた事件

二 議事日程に同じ。

大層議員

吉田勇治郎

鈴木正一郎

小柴 孝

館石伝蔵

田中祿郎

秋山大三郎

田村源治郎

望目照正

安西益男

辻田 実

石井 正

菊井敏博

志村信作

小沢恵太郎

関 武夫

飯田義男

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

荻生田七郎

鈴木 孝

嶋田 繁

山田 敬 宇

鈴木 市 蔵

安藤 龜 吉

安 沢 徳 順

三 沢 薔

高 橋 文 治

山 本 昇

松 本 藤 太 郎

山 口 康

大 門 議 員

黒 川 佐 太 郎

出席事務局取員

第一日目 同 じ

出席説明者

第一日目 同 じ

昭和三年八月二十一日

右會議次第を録しここに署名す。

館市議會議長 黒川 俊之助

同 署名議員 安澤 徳順

同 同 市 係 治 郎

